

大規模マイクロデータを用いた健康・医療政策評価に関する研究集会

2025年3月3日（月）

一橋大学国立キャンパス経済研究所 会議室2（一橋大学経済研究所東棟3階）

13:00-13:10 オープニング

I 全数データベースを用いた実証分析

13:10-13:50 第一報告 高久玲音（一橋大学）

TBA

13:50-14:30 第二報告 井深陽子（慶應義塾大学）

The Effect of Voluntary Staying at Home on Japanese Female Suicide during the COVID-19 Pandemic (Joint with Haruo Kakehi, Ryuki Kobayashi, Ryo

Nakajima)

休憩（15分間）

II 医療財政の実証分析

14:45-15:25 第三報告 林真生（慶應義塾大学）

Cost-Saving Effects of Regional Formulary: How Information Influences Physicians' Prescribing Decisions

15:25-16:05 第四報告 西田安紗（財務総合政策研究所）・別所俊一郎（早稲田大学）

医療保険における自己負担割合引き上げの効果の異質性

休憩（15分間）

III レセプトデータの実証分析

16:20-17:00 第五報告 岡庭英重（山形大学）

特定健診受診の短期的効果（仮）（湯田道生との共著）

17:00-17:40 第六報告 中嶋亮（慶應義塾大学）

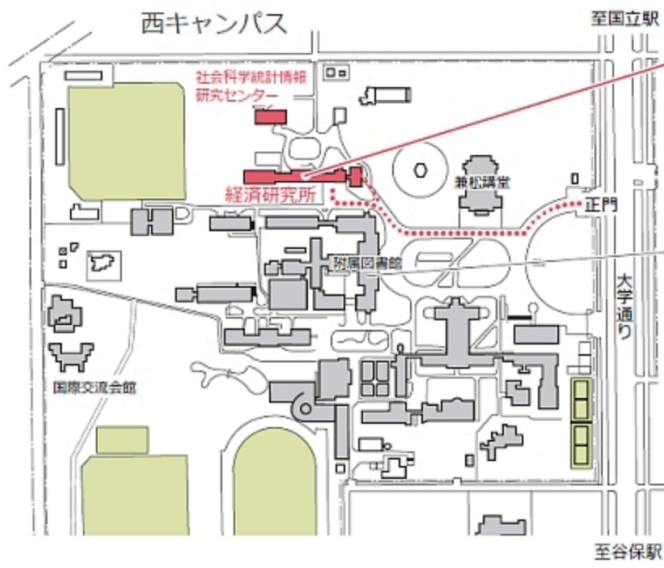
The Role of Pharmacists in Generic Pharmaceutical Adoption (Joint with Haruo Kakehi)

17:40-17:50 クロージング

本研究会は一橋大学経済研究所共同利用・共同研究拠点プロジェクト研究2024年度「感染症流行下の自宅待機がメンタルヘルスに与える影響」の資金の提供を受けて開催されています。

アクセス

JR中央線 国立駅より徒歩12分。一橋大学西キャンパス。



一橋大学
 JR中央線 国立駅南口から徒歩約10分
 JR南武線 谷保駅北口から徒歩約20分またはバス約6分
 (国立駅行き、一橋大学下車)